

ふしでおし

第百六十三號



はれてよし
くもりても
ふしあー山
もつせ
すめたき
いはら
き
けり

昭和十一年一月

學校日誌

- 十二月廿四日……終業式 全児童小石拾ヒヲ行フ
- 十二月廿六日……午前七時全児童波止場ニ入營兵ヲ見送ル
- 一月一日……前九時 拝賀式 式後 大神山神社参拜
- 一月四日……前八時高男^消防出初式ニ参列
- 一月十日……前八時始業式
- 一月十日……拾円也 保護者會ニ御寄贈 電信所長高内以佐送
- 一月十二日……書初展覧會
- 一月十九日……前九時卒業送別競技會 卒業組九九 在校組 五二
- 一月廿四日……遊戯と競技一月号御寄贈 石津書店殿

一ネンセイ
〔正月〕

センニボクが タコブゲニイキ
マシタ。ハサフデモ オホゼイ タコブゲ
テキマシタ。
サウシテ、ダレカトガ ウミニホッコ
キテシマヒマシタ。ミンナガワク
ソテキマシタ。サウシテヒツパツ
ケレドモ、ダレテアガリマセン。
ボクノハ、タカクアガリマシタ。
ヒツパツテ、ギメンニオキマシタ。
サウシテ、ウチニカハツテカラ、オ
トウサンガボクヲホメテタダ
サイマシタ。

マサマ サブラウ
ボクハウチデ、カルタトリヲシマシ
タ。ソシテ、ボクガ、一パンカツテ、キョ
コレトヲモラッテ、ボクハタベテ
シマヒマシタ。ソレカラ、マタ、シオカラ
タベテ、シマヒマシタ。ソシテ、ボクガ
オミセニ、デテ、ミルト、オカヤサンガ
、ソガシイカラ、オクハ、イキナサイ。
ト、イヒマシタ。ボクハ、オクハ、イキ
マシタ。

シマカハヒロキ
オ正月ニハ、ボクハ、五ジゴロ、オキマシ
タ。オカヤサンガ
、オフロニ、ハイリナサイ。
ト、イヒマシタカラ、ボクハ、スグハ
イリマシタ。ソシテ、オフロカラ、デテ
、オトウサン、オメデタウ、オカヤサン
、オメデタウ。
ト、アイサツヲ、シマシタ。ソレカラ

オゾウニヲダバマシタ。ソシテ外
ヘデテミルトヒマルノハタガ
カゼニヒラヒラシテキマシタ。
ボクハソレサカガツカワニイキ
マシタ。

私ハカルタヲシテアリビマシタ。
サウシテ
イヌモアルケバボクニアタル
ツテヨミマシタヨラ私ハ
ハイ

イツテトリマシタ。サウシテモウ
キタカラテブルヨダシテカソツ
キヨラウトイツテダシマシタ。
サウシテミカンツキヨマリマシタ。
ツキエキヤンガミカンノマンナカ
ボクリッ
ツツキマシタ。マタハコロノナカ

カラモツテキエコンドハ私ガツ
ツキマシタ。サウシタラ
ボクリッ
トマタアツクガデマシタ。
サウシテコンドハニハヘイツテ
ハネツキヲシマシタ。ハネヲカテ
シマシタ。
「オトシタラスミシケツコヲシヨウネ」
トイツテシマシタ。
コンドハアリビニイキマシタ。

スギヤママサヨ
ボクノウチニカドマツヨダテテ
モラヒマシタ。ダンダンタツテキテ
ヨルニナリマシタ。サウシテオト
ウサントオカアサントエイコサント
ボクトミンオデスゴロクヲマリ
マシタ。ボクハヒトツバカリデテ
モウヨシタクナリマシタ。

お正月

いよくたのし



いよくたのし
お正月が来ました。私は
朝早くおきで水をつくって着方を
しました。そして、おはんをたべ
て学校へ行きました。学校からかへて着
物を着て、しちやうのさ山さんのお家へ行
きます。おがすさんがおたいこをしめておま
した。私が「おがすさん、きれいだね」
といふと、「やだよ、あいちやんは」といひ
ました。おぼさんが、「家へはいりなさい」
といったから、「え」といってはいりました。
すこしたつちがすさんが「おたいこを
しつたから、はねつきをしませう」とい
つたので、「え」といって、大い集めて
来て、はねをついておますと、よつばらひ

が「よつた、よつた」といひながら私たち
の方へやがて来たので、「いやだよ、このよつ
ばらひは」といって、おがすさんの家へにげ
て行くと、よつばらひは、また、その後をついで
来て、「やあ、おがすさん、おめでたう」とい
つたので、「おめでたう」とおぼさんといひ
ました。それをむう、大じやうぶだから、
といふと、ついでおると、おぼさんが、「みなさ
ん、いらつしやい」といひましたから、私たち
が行くと、「おみかんをたべなさい」とい
つたから、たべました。それから、大じんぐう様
へおまおりましたから、かへりました。
私田愛子

いよくたのしいお正月が来ました。
私は、さうにたべてから、着物を着かへて
おをびに行きました。さうして、あいちやんと
はねをついておますと、向ふの方からよつば
らひがよちよち来て来ました。私たちは、にげて
行きました。私のほごえたには、きれいな女

の人がついでおます。お正月には、よっぽ
らひがぬるから、「やだ」と思ひます。
菊池美栄子

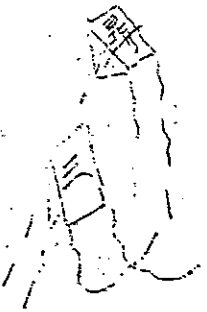
お正月にのりたとりをしました。ぼくが
しつぼうに、「しつぼうは、二筆と五筆とか
るたとりをやらう」といひました。
すると、「しつぼうが、それでは、お前ら
がむりだ」といひました。けれどぼ
くは、「お前は、勝とうと思つて、

「お正月にのりたとりをしました。ぼくが
しつぼうに、「しつぼうは、二筆と五筆とか
るたとりをやらう」といひました。
すると、「しつぼうが、それでは、お前ら
がむりだ」といひました。けれどぼ
くは、「お前は、勝とうと思つて、

ぼくは、なぐなしたと思つておました。する
と、おくわしの箱の所に、「になひやほやの
勝田新ざえ門」の糸のふだがありました
た。ぼくが、「しつぼうは、ずるいや、かくす
から、しつぼうがしたんだらう」といふ
と、「おちがふよ。だれか、おいたんだよ」と
いひました。それで、ぼくは、「おいたのは
んは、かくしてするから、たをしよう」といっ
て、やめました。 浅沼正夫

いよく、お正月になつたから、書をめ
を書きました。今度は、はねつを
しようと思つておると、雨が降つて来ま
した。雨が降つて来たから、家へはいつ
て行きました。私は、「雨が降つてつま
らないわ」と思ひました。
沖山ジツ

年がツククオウキマシタ。
今年ハ、キヨキヨオリス。ソウホシキ
バン。



お正月の朝

浅沼和子

お正月の朝、お母さんが「お正月の朝、お母さんが

お母さんが、お正月の朝、お母さんが、お正月の朝、
お母さんが、お正月の朝、お母さんが、お正月の朝、
お母さんが、お正月の朝、お母さんが、お正月の朝、
お母さんが、お正月の朝、お母さんが、お正月の朝、

お正月の朝、浅野真

お正月の朝、お母さんが、お正月の朝、お母さんが、
お正月の朝、お母さんが、お正月の朝、お母さんが、
お正月の朝、お母さんが、お正月の朝、お母さんが、
お正月の朝、お母さんが、お正月の朝、お母さんが、

お正月の朝、お母さんが、お正月の朝、お母さんが、
お正月の朝、お母さんが、お正月の朝、お母さんが、
お正月の朝、お母さんが、お正月の朝、お母さんが、
お正月の朝、お母さんが、お正月の朝、お母さんが、

杉山榮子

私がかへてみんと遊んで居ると正子も...
私が逃入るたび私と和子...
「おらおら」といって、...
「おらおら」といって、...
「おらおら」といって、...

羽根つぎ

沼田順子

お正月の夕方に、みどりさんと私と追羽根を...
「あつ、つぎごきんおとしした」

四年生の級方

復習

浅沼栄一

ねている時

神山清次

僕は學校から帰るとすぐ復習の事を思ひだす。
晩にも復習の事を考へると晩が來なくて書けな...
早く書かなくてはよと思つて早く寝ます、
早起するとすぐ朝がくるやうになります、僕は

ぼくはさのふとんをしいてねていると弟が...
きて、かけわをもちて來て僕のあしをしは...
つてしまひました、僕は、「こ」となつて...
ふとんをあげてみると、弟でしたから、に...
弟を泣かすとお母さんが僕がぶどうとしたか...
らにげやうとしたが足がしげつてあるからど...
うしてもにげることかできないかつたからと...
うかがあさんにおたれてしまひました。

うちのねこ

石田多美

おぢいちゃん

西沢芳枝

私はねこの子が大ききなのでだつこしてばかり...
みます、學校からかへつて、夕日とよぶと...
どんな遠くにもとんで來ます、私には、...
仲くてたまりませんです、夕まがよそのねこ...
とけんくわをしてゐると私が行つてそのねこを...
違つてやるとよろこんでゐます。

おぢいちゃんはお島の人です、十二月頃は...
お島にいきましたか今はお島にきています、...
私が學校がおそいと好次郎をおんぶしたり、...
だつこしたりしてつれてやります、...
夜はお母さんがおふろにはいつて來るまでつ

おいてやりませす。好次郎もかはいがつかつてや
るおぢいちゃんだからよろこびます。私かだ
つこをするよ。いやだとみえて泣きます。
だから私も多まりかぬいがかつてやりません。
さとも私とはおぢいちゃんとおぢいちゃん
私に二人にさらはれるのでつまらなく思ひます。

おぢいちゃんに 長田 克介

バタ／＼といふ音に目がさめた。おぢい目をこ
すりながら起きてみるとおぢいちゃんかもうおきて
いた。だからそいつと起きていつて「ソソとい
つたら、ソソ」といつておぢいちゃん、そこへ
皆がかきてしまつた。僕はそれまでだまつてぬ
てしまつた。皆はもうだれどころではたういて
いた、かあちゃん「お、おどろいた」といつ
ていた、その時僕がでてきて「今の僕だま」
といつたら皆がどつと笑ひ出した。
それからどうになつた、僕が七はいたべたら
おぢいさんが「はかの大ぢいおぢい」といつたカ

僕は「おうたべない」といつてよした。
ゆめ 服部 きぬ子

或る夜半でした、私がお使ひに山のうちに
く途中に一軒のさびしい家がありました。
おぼさまのうちにいくのは家から二里。あ、
おつかが存いなあ、あの途中の家はだれの家で
せう、とひとりごとをいひながらあるいてい
きました。そのうちは森の中のうちです。

そのおぼさまへ行つた時にその中から人を食
ふ人間が出て来ました。私は一生けんめいに
かけ出して一山こえて川をわたり、やうやく
うちについた時、夜が明けました。
目かさめた時はまるくなつておせびつしまり
でした。「お、くだびれた」といつて顔を洗
つて學校に行つたか足かいたくてたまらな
つた。
まはり

尋五の綴

◎ 正月の夜

佐々木 晴治

一月五日の夜僕等は先生の家へあそびに行
きました。一番元は達夫先生が手品をするとい
つた。先生は「おまますと先生がふるしきと一錢
銅貨を持つて来てこれに十錢白銅をかへて見
せると云ひました。一生けんめい目を光らせ
て見て居たおぢいちゃん、おつせムおつせム
がふるしきについておぼさまと云つたので大笑ひ
となりました。次は東先生が表を見ないでト
ランプをあてました。二三回する内に誰かおぢい
あ、あんな所におぢいちゃんが見つけましたので
先生は「おまます」といつて手品をやめました。
それから遠くなあそびをして、お菓子をもち
さうに居り、みかんをもちつてかへりました。

◎ たこ上げ 大川 勉

僕は正月にあそんだあそびの中で一番面白
かつたのはたこ上げでした。高い山の上に登
ると風がすう／＼と吹いて居た。僕は早速た

こにひまを上げて上げた。どん／＼と上つて行く
のでそれにつれて糸をのばした。するとくる／＼
と二回まはつた。おれと思ふとまた上つた。僕は
おぼさまと見ると、たこはくる／＼とまはつて落
ちて行く。お、海かと思つた通り、とう／＼海へ落
ちてしまつた。あ、僕の大切なたこが海へ落ち
てしまつた。お、おぼさまがうかへりました。

◎ 僕は机です フランキワシントン

僕は机です。僕の主人は大へんいたづらでよく
僕をけづります。ことに手工の時、主人はナ
イフを僕のせなかにあて、引くのていたくても
まきません。或時の事でした。主人はいつもり
やうに僕をけづらはじめました。所がそのうちに
主人は手を切つてしまひました。僕は心の中でい
、きみといひました。それから主人は僕を切らな
く居たので僕は毎日安心して居ます。僕の主
人はフランキです。

◎ 競技會 奥山 春子

一月十九日は競技會です。私たちは九時に學校へ

集まりました。應援の旗は校舎の裏で一心に練習して居ます。いよ／＼始まるかねが鳴りました。生徒は二組に分れる旗に合せて私たちは勝つやうに一生存けぬめに歌をうたひました。ピストルの音がどんとひびくと一着はじめの男生の百米です。私たちは声をかざりに在校生の選争におうえんしました。で、在校生がかちました。けれども在校生はあつか／＼にまけてしまいました。

一〇四 百米 鶴澤 寛

今しも四人の選争はスタートに行列になうびました。大村小学校競技會の四百米です。ピストルピストルがなりました。卒業組の一人がもうれつなスピードで走り出しました。他の三人はゆつくりかけてみます。應援團は無中になつて「ブレイ／＼」と應援してみます。三週目に入りました。卒業組の俊彦君スピードを出しました。今まで一番であつた男君は俊彦君にぬかれました。在校生は十米も後になつて／＼／＼にまう。

にせまりました。あ、石津君決勝走とどびにましました。二着も卒業生。あ、僕等はまけた。くやくて應援の歌も出た。俊彦君はこの時一分十二秒五分、四の新記録を作りました。

● ボール投げ 雨宮 登美子

私たちのボール投げの選争は高崎テルちゃん、村松壽子さん、卒業組は曾代ちゃんに留まらんでした。一番始めはテルちゃんでした。テルちゃん投げたボールはそれ二年生の頭の上へ落ちましたので、みんなびつくりかへつてしまいました。今度はひさ子さん投げると大へんいっただので私達はよるこびました。次は卒業生の選争でした。私は心の中でどうかいかな、やうにといのりました。ところがとてもいつて、在校生はまけてしまいました。私はくやく／＼つてもう歌もうたはないですわつていました。卒業生は九十九、在校生は五十二、負りました。家はかへつてもたまつておりました。

尋六

幼心にまつれぬるまじに語り出せる思ひ出のこゝどき。

宮崎 やす子

一才 私は大村の東町に生れた。あた／＼かい母の胸に抱かれてお乳をす／＼とぶくまされ何事もわからずだん／＼育つて行つた。

二才 この生れた所を後に扇風谷へ越して来た。間もなくお乳をやめた。そのうちに可愛い妹が生れたので妹をおもちやに仲よく遊んだ。

四才 母は病氣になつちが別にかはりもなく又平和な年を迎へた。母は又病氣になつた。そしていよいよ東京へ行く事になつた。東京へ行くて見たいといふ一心から妹の事へお思はずおとに残して船に乗つた。途中であつた。やうやく船に横浜についたが船が時間よりおくれたので誰も迎へて来てくれなかつた。やうやく母様の家へついた。母は濱田病院や大塚までに通つた。病室で一月ほど過すとあきつばい私はだん／＼あきてきて何故二人なとこへ来たのやらうと思ひ父がこびしくなつた。しくなつてきた。母の病氣もいくらかよくなつていけ／＼と見物してあげた。先づ一番はじめの明治神宮にお参りして参拜記念として湯呑茶碗をたゞ買つて来た。上野の動物園にも行つた。

六才 母の病氣はすつかりよくなつていよいよ歸郷事になつた。今まで東京に居ておくれには歸郷といふことが非常にうれしいことであつた。妹のお土産をどうも買つておくれに帰郷の家についた時妹は嬉し／＼一生懸命私におせじを言つてゐる。それと

おしやべりの出来はじめの可愛いきかりだつた。私をひつぱりながら其の方へ行くと、これ
お父ちゃんおべべ、これお母ちゃんおべべをいじった事があまり可愛いくて、今だに其の
言葉が忘れられない。

七才 此の年にはもう一人前の小学生となつた。一年生の頃の事を思へば鬼のほどもおかしく
なる。一年生に上りたてに母がいろいろと注意されたその中の一つ「時間中におしつこ
が出たくなつたら心棒しておかないで先生にこゝろあつて、便所へ行くのをすばよとたたく注意
された私は母の言葉にしたがつて時間中には一度もトイレに行きませんでした。それ
がどうでせう。一番先に誰かが（名前をいふ）まらして大へん先生をこまらせた事も
ありました。それか又すこしひどくなつて誰か入れば大便をもらしてしまひました。

八才 免状式もだん／＼進みました。それでも其の頃の成績は大へんよく全甲でそれに優
等の御ほうびをいたゞいて二年生に進級出来ました。

九才 板東先生とお別れしなげればならない。又とない悲しい日が来ました。先生を船まで御
見送して家へ歸へると今度は何といふ先生が教へて下さることかと思つておると翌日菊
池先生が私等の教室へ来られた。いよく菊池先生が受持つて下さるのだと思ひまし
た。今までの悲しかった日も又楽しい日とかはつた。その中に菊池先生も扇浦の方へ御
轉任になりその後へ毎口先生がおいでになりました。けれども毎口先生も又おやめにな
りました。

十才 今度こそは私達のこはがつておた藤川先生にあたりました。私達を教へて下さる先生
はどうして落付かないうちにわかはりになるのやせう。私たちが教へるのがいやになつ
たのでもなごあきたりでもなごこれに皆いろ／＼な御都合からなのでせう。これから教
へて下さる藤川先生は私達が卒業するまで面倒を見て下さる事と思ひました。藤川先生
も口ごこわい／＼と言ふ程こわくはありません。

内山登美子

一才 大正十二年九月四日大震災の前の日が私のお母さんだつたさうだ。其の時お父さんは
いらつしやらなかつたさうだ。お母さんと私とだけおつた。千度お釜の片付けをして
お母さんがタカ／＼といふ物音と一時にガラ／＼がゆれだしてところかまはず上の物が落ちて
来た。お母さんは私を産むの中へ顔をうつ二人で何か落ちて来てもきずのつかないように
したさうです。

二才 七月十九日私の誕生日私のお母さんにいおだいた靴をはいてヨチ／＼歩いた時は能
分可愛いかつたよとお母さんがお話ししました。

三才 お母さんにおぶさつて菓子を貰ひに行きました。歸りに背中をさわいで持
つておたお菓子も落してしまつた。すると菓倉所に倒つてあつた羊がおりでもぼづれて
おたものを見えてどや／＼と三四匹の羊が飛び出して来た。と思ふと袋ごと持つて行つ
てしまつた。私達がアレッ／＼と思つて見るともうなに知りぬけろつとした顔でおりの方
へ走つて行つた。私其の時の恐氣はいつまでたつても忘れられない。

四才 今では何人ともないがあの正月のお獅子舞はとても恐ろしかった。お正月お母さんや

お父さんと羽根をついて遊んでゐた。そこへ太鼓の音や笛の音が聞えてくる。私は悦んで門の外へ出た。それは一度家へ来る獅子だつた。私が門の外へ出ると私の顔のところが、おの恐しい顔でバクバクと又々大きな口を開いた。私は「あつ」といつて泥下駄のまゝ家の中まで駈上つた。今考へ出すと、そのことはなんと言つてよいかわからない。八才の春、私は一年生として入学した。新しいお笑服ランドセル、靴、なにかり何まで新しいづくわだ。学校で習ふこと聞くことイロハのイの字も知らなかつた。拍子割い、有難いものだと今になつて考へ出す。一年生の十一月、青森縣に轉校となつた。拍子割い、おのぢから轉校などしたくなかつた。けれど雪が澤山あるなど聞いておたから一日も早く青森へいつて見たかつた。汽車で一晩おて舞九舞頭大漆の停車場に着きました。思つておた通り雪はどんどん降つて停車場の空を半分も上につもる程おつた。停車場へ待つてゐる澤山の馬から出るのをすから誠にされいであつた。白煙の様なものが、らんで出るのが澤山の馬から出るのをすから誠にされいであつた。嬉しいこと、驚くことなどはいつまでたつても忘れられませぬ。

◎附記

私達にはみんな同じやうにこんな思ひ出が澤山残されてゐる筈です。ここに一遍の回想を記して將來社會への門出の段階を語り尚より以上有意義なる思ひ出を残らねといと思ひます。尚他にも面白くもありよいかもまた紙面の都合上二人だけのを記しました。澤山ありました。

高作文

お正月

田中茂子

まちにまつたお正月が来ました。私は朝早く起きてお風呂に入り、久振りに着物を着ました。食へるから着物をさかへ学校へ行く式をすませ、掃除機で直ぐおたいをしまつて羽根つきに行きました。子供が少くない屏風谷の事からさつぱりしてました。二日の日はお晝に着物をさかへおたいをしまつて羽根つきに行きました。すると学校の庭では、高一の生徒が先生と羽根をひいてゐました。私にはそよちやんと西町であそびました。すると雨かしく、おたいを出して来ましたが、二日も三日も雨がふつて、全くいやなお天気でした。今年のお正月のやうに悪いお天気ありません。

お正月

毎田美津

待ちくたびれたお正月もはや夢のやうにすんだ。一月一日はほんとうによいお天気だつた。今でも頭に浮んで来る。午前三時頃友達三人連で大神宮神社に参拜に行つた。何處の家でも門松が立並んでゐる。おたいをしまつて羽根つきに行きました。おたいをしまつて何だかお正月が来ないやうに思はれる。午前九時から一月一日の式が行はれるので学校へ行つた。校長先生から「おたいをしまつて羽根つき」を聞かされた。お正月はほんとうに楽しい日だと思ふ。

二月余りごらばせ一げとらしてはあつ二度とこな、學生生活をあつたころからなつて来た日一日と卒業を問ふたなりもう社會が一人となる日も近づいて来た卒業問際になつてから學校の愉快を樂しむて知るやであるふさの時早く學校を卒業して大人になりたいたと學生生活の窮乏をなげいたが、卒業となると二度と来ない母校を思へばいつまでも、え永久に卒業をさうな事ななければい、と考へるほど心しく又したわしのかであるが卒業しなればならぬ運命であるせめて學校生活の最後として此の三學年期こそは一生懸命勉強し社會に出でからの思出の種になるやうにしたいと思ひすぎに、日よ永久に歸らぬ學校生活よあつと二月余の一生懸命努力しよう。

今朝の味噌汁

高ニ、奥山サキ子

寒いのが起きるのわいやだ母は朝飯の仕度でりかかろう、妹達を早くから起出して、學校の練習をしてある起ればいせ仕事をしてはたらない、寒いのがわいやだなあと思ふおとんを頭からひつかぶる母が姉さんをおいせとつておる尚しうんふりしてりかかろう、まわ等しなからわいてたなぶのふたをとったのであらう味噌汁のほかに何かかきこいたおとんの中一ぱいにしよしまし、食べたりなあつと云ひながらすまじと頭を上げると妹がやあ、ぬえちやんのうそわとつてい、おとんをひんまくるい、おとんがおい仕事をすませおつ、味噌汁で朝食を終つた。

終りに。



萌える若草

青年學校だより

新春を迎えて

年々歳々花相似たり、星入同じからず、伸び行くものは決して木草のみでない、苟しくも生あるものは日月と共に伸び行く筈、殊に人間の智の力知の働きの、其の絶大なるを信しなければならぬ、萌える草が幾多の障礙を打破して生成發展する偉大なる力、大自然の威力、之を青年國民の上に移して見て見る、我等は前途尚遠く而も四圍悉く大障壁に繞られても、自若として之を突破して、今日の仕事遂行に邁進する大なる力を、之を信するものである、蓋し之を發揮すると否とは、己の心にあるを思ふ時、我等は將來の國家を双肩に負ひて、大任を有する青年に對して、此の新年の新意氣を以て精進し、本全の目的達成に勇往せられんことを切望するものである。

一月十日

福岡透

ピクタース

高橋益盛 三氏

入寮の送

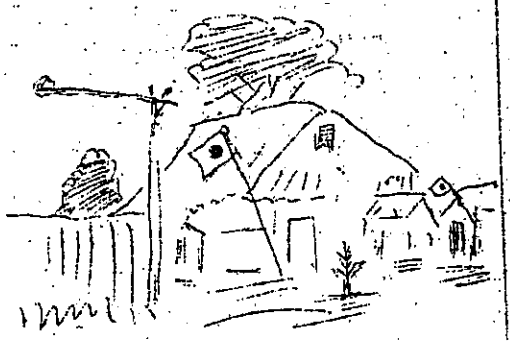
右三氏共、無事入寮せし目下、軍務精勵中、各位三宜しく通信アリ

一月中旬入學者氏名(六名)

- 細谷太郎、江平一、松代巧、山田亨、倉島由次、沖山未吉

一退學者氏名(三名)
山田忠、上京三付。

笹本明 海軍兵志願者検査付、名和用喜代春同上
以上



死ぬまじり
こゝろ丸でぶちし
おる月

昭和十年一月二十七日

大村尋常高等小學校より編輯部発行

順	種目	得点		本年レコード	氏名	在来レコード	氏名
		率	在				
1	100 (男)	4	7	15秒	原田正道	15秒	菊池安彦
2	100 (女)	8	3	16 ¹ / ₂ 秒	小祝温子	16 ¹ / ₂ 秒	小祝温子
3	3段跳(男)	7	4	10.22米	小祝温子	11.02米	持丸さね子
4	3段跳(女)	7	4	22.99米	笹本曾代子	22.82米	ハーランワシントン
5	砲丸投(男)	8	3	9.46米	笹本文彦	11.33米	ハーランワシントン
6	砲丸投(女)	8	3	1.42米	石津俊彦	1.48米	ハーランワシントン
7	走高跳(男)	5	5	1.42米	石津俊彦	1.48米	ハーランワシントン
8	50 (女)	5	5	8 ¹ / ₂ 秒	ハーランワシントン	7 ¹ / ₂ 秒	ハーランワシントン
9	400 (男)	8	3	1.12秒	石津俊彦	1.13秒	原田重彦
10	走中跳(女)	8	3	4.13米	小祝温子	4.09米	小祝温子
11	走中跳(男)	7	4	4.68米	鈴木芳雄	5.35米	小祝温子
12	リレー(女)	7	3	2分34秒	小祝温子、小祝温子、小祝温子、小祝温子	2分31秒	小祝温子
13	リレー(男)	7	3	2分18 ¹ / ₂ 秒	小祝温子、小祝温子、小祝温子、小祝温子	2分18 ¹ / ₂ 秒	小祝温子
合計	マラソン(男)	15	7	6分15 ¹ / ₂ 秒	石津俊彦	6分11 ¹ / ₂ 秒	鈴木春吉
		九	五	②印ハ新レコード			

昭和十年年度送別競技會

昭和十一年一月